

平成23年3月11日、東北地方太平洋沖地震により巨大津波が発生し、多くの犠牲者を出しました。

この未曾有の災害の中にあっても、適切な避難行動により無事生還を果たした事例があります。津波防災活動に積極的に取り組んできた釜石市の中学生の行動がそれで、その元となったものが「避難3原則」といわれるものです。

1つめは「想定にとらわれない」ハザードマップに示されるとおりの津波が来るとは限らず、その時の状況に応じて行動すること。

2つめは「最善を尽くす」このくらいで大丈夫と考えるのではなく、「その時できる最善の行動をとれ」ということ。3つめは「率先避難者たれ」自分が素早く避難することで、他の人も同調し避難を始め、結果多くの人の命を救うことになるというものです。

この原則に関連したもので、東北地方には「津波てんでんこ」という標語があり、これは「津波はめいめい（で避難しろ）」という意味で、「津波がきたら、取るものも取り敢えず、肉親にも構わずに各自てんでばらばらでも高台へ逃げろ」というものなのです。

これは、当然ながら家族間などであらかじめ互いの行動をきちんと話し合っておくことが前提で、離れ離れになった家族を捜したり、とっさの判断に迷いを生じたりすることなく避難行動をとれるようにしようというものです。かつては利己的として批判する向きもありましたが、真意はこういうことなのです。

明治三陸津波地震以降だけでも、いくどとなく津波被害を蒙り、一家の共倒れなど多大な犠牲を払ってきた地方で生まれたものだけに、この言葉は肝に銘じ避難行動の範としたいものです。

また、最近「稲むらの火」の話も知られるようになってきました。これは安政南海地震の津波を元にした話で、時間的余裕がない中、津波の来襲を村人に気づかせるために、高台の自分の田んぼの刈り取ったばかりの稲束（稲むら）に火を付け、火事と見て駆け上がってきた村人を結果的に避難させ命を救ったというもので、かつては教科書にも載っていました。最近では、防災意識を喚起する資料として、海外でも紹介されるようになってきました。

(参考までに)

※「稲むらの火」

作 小泉八雲 訳・再話 中井常蔵

※「津波てんでんこ」

1990（H2）年全国沿岸市町村津波サミットで生まれた標語（ただし昔から“めいめい”逃げろという伝承はあった）

